

1 改定までの経緯

日程		内容
令和5年度	令和5年 10月31日	第1回 白子町都市マスタープラン策定部会
	11月28日	第1回 白子町都市マスタープラン策定委員会
	令和6年 2月15日	第2回 白子町都市マスタープラン策定部会
	2月29日	第2回 白子町都市マスタープラン策定委員会
	3月22日	令和5年度 第1回 白子町都市計画審議会 〈議事〉 ○白子町都市マスタープランの策定について ・白子町が目指す方向性 ・都市マスタープランの構成 ・まちづくりの方針と将来都市構造 ・地域区分の考え方
令和6年度	7月5日	第3回 白子町都市マスタープラン策定部会
	7月29日	第3回 白子町都市マスタープラン策定委員会
	10月30日	第4回 白子町都市マスタープラン策定部会
	11月19日	第4回 白子町都市マスタープラン策定委員会
	12月16日 ～ 令和7年 1月17日	パブリックコメント及び 町役場ロビーに都市マスタープランに関するパネル展示
	令和7年 2月7日	令和6年度 第1回 白子町都市計画審議会 〈議事〉 ○白子町都市マスタープランの策定について ・地域別構想 ・計画の推進 ・都市マスタープランのとりまとめ

2 都市計画審議会の委員名簿

	区分	組織・役職名等	氏名	備考
1	第1号委員 (学識 経験者)	学識経験者	中田 文昭	会長職務 代理者
2		振興審議会長	芹澤 豊	会 長
3		観光協会長	篠崎 昌治	
4		農業委員会長	御園 弥 (~令和6(2024)年3月) 片岡 知幸 (令和6(2024)年4月~)	
5		商工会長	前橋 貴男 (~令和6(2024)年3月) 向 光男 (令和6(2024)年4月~)	
6	第2号委員 (町議会 員)	町議会 議長	梅澤 哲夫	
7		町議会 副議長	大多和 正夫	
8		町議会 総務常任委員長	大多和 秀一	
9		町議会 産業建設常任委員長	今井 滋則	
10		町議会 厚生文教常任委員長	大多和 正之	
11	第3号委員 (関係 行政機関)	長生地域振興事務所長	金子 善一	
12		長生土木事務所長	森川 陽一 (~令和6(2024)年3月) 徳留 顕二 (令和6(2024)年4月~)	
13		長生農業事務所長	中嶋 浩之 (~令和6(2024)年3月) 大須賀 信宏 (令和6(2024)年4月~)	
14	第4号委員 (町 民)	自治連合会長	河野 良一 (~令和6(2024)年3月) 朝生 哲 (令和6(2024)年4月~)	

3 用語集

あ行

アグリツーリズム

アグリ(農業)とツーリズム(旅行)を組み合わせた言葉。都市部に住む人や家族が地方の農村や農場まで旅行し、可能であれば一定期間、滞在しないし宿泊し、田植えや稲刈りなど農業の現場を体験すること。

インバウンド

外国人が旅行で日本を訪れること。

オープンスペース

ビルやマンションなどの敷地内において建築物が建てられていない空間や、広場や公園、街路、河川などの公共の空き地。

か行

カーボンニュートラル

温室効果ガスの排出を全体としてゼロにすること。「排出を全体としてゼロ」というのは、二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの「排出量」から、植林、森林管理などによる「吸収量」を差し引いて、合計を実質的にゼロにすること。

回遊性

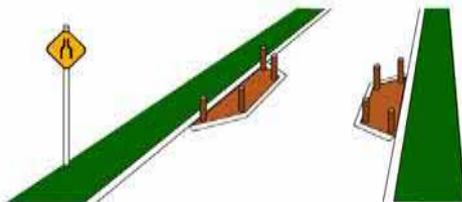
人がまちなかの様々な場所や資源に触れることができる度合いのこと。まちづくりでは、回遊性を高めることで、まちの魅力や活力を向上させることが期待される。

幹線道路

国道、県道ともに道路ネットワークの骨格を形成する道路で、交通渋滞の緩和など円滑な交通の確保を図るとともに、地域間の連携・交流の促進に寄与する道路のこと。

狭さく

通行車両の減速を促すことを目的として、自動車の通行部分の幅を物理的に狭くしたものの、あるいは視覚的に狭く見せるもの。



(国土交通省)

グリーンツーリズム

農山村で自然・文化にふれたり、人々との交流を楽しんだりする滞在型の余暇活動のこと。地域の魅力発信や活性化が期待できる。

グリーンベルト

路側帯をカラー舗装化し、車道を色彩によって区別することで、運転者に歩行者空間の存在を認識させ、注意を喚起し、通行速度の抑制を図るもの。



(国土交通省)

健康寿命

WHO(世界保健機関)が 2000 年に提唱した新しい指標で、「健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間」と定義される。平均寿命と健康寿命との差は、日常生活に制限のある「健康でない期間」を意味する。

高次都市機能

日常生活の圏域を超えて広範な地域に質の高いサービスを提供する機能のこと。

さ行

災害レジリエンス

災害に対する回復力のこと。

サウンディング調査

直接の対話によって町民や民間事業者の意見やアイデアを集めることを目的として行う調査のこと。

シェアリングサービス

自動車や自転車などを複数の利用者で共有し、指定の場所で自由に貸出・返却できるサービスのこと。

市街化区域

都市計画区域のうち、すでに市街地を形成している区域及び概ね 10 年以内に優先的に市街化を進めるべき区域のこと。

市街化調整区域

都市計画区域のうち、市街化を抑制すべき区域のこと。

自然動態

出生と死亡に伴う人口の動きのこと。

社会動態

転入と転出及びその他の増減に伴う人口の動きのこと。

スポーツツーリズム

スポーツとツーリズム(旅行)を組み合わせた言葉。スポーツの参加や観戦を目的とした地域の訪問や、地域資源とスポーツを掛け合わせた観光を楽しむスポーツツーリズムの推進を通じ、国内旅行需要の喚起や、スポーツへの関心度が高い外国人旅行者の訪日促進を図ること。

スマート農業

ロボット、AI、IoT等の情報通信技術を活用した「スマート農業技術」により、農作業の効率化、農作業における身体の負荷の軽減、農業の経営管理の合理化による農業の生産性の向上が期待されるもの。

た行

テレワーク

情報通信技術を活用した、時間や場所にとらわれない柔軟な働き方で、コロナ禍において急速に普及した。

都市計画道路

都市計画法に基づいて都市計画決定され、あらかじめルート・幅員などが決められた都市の骨格となる道路。都市計画道路は、将来の都市像を踏まえて計画され、人や物資等、都市における円滑な移動を確保するための交通機能や、都市環境、都市防災等の面で良好な都市空間の形成、及び供給処理施設等の収容空間を確保するための空間機能、あるいは都市構造を形成し、街区を構成するための市街地形成機能など、多様な機能を有している。

な行

農業振興地域

都道府県が自然的・経済的・社会的諸条件を考慮し、総合的に農業の振興を図るべき土地として指定した地域のこと。

農用地区

「農業振興地域」のうち、市町村が今後農業上の利用を図るべき土地として指定した地区のこと。

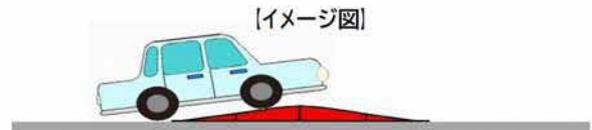
は行

パブリックコメント

行政機関が条例や施策を制定するにあたって、事前に案を公表し、その案について住民の方から意見や情報を募集すること。住民の町政への参加の推進や行政運営の透明化の向上を図ることを目的とする。

ハンプ

車道に設置した凸型路面で、その部分を通過する車両を押し上げるものであり、運転者が事前にこれを視認し、速度の抑制をねらった道路構造のこと。



(「道路構造令の解説と運用」(日本道路協会)より)

福祉タクシー

障がい者、高齢者、妊産婦など、一般的な公共交通手段での移動が難しい町民の移動をサポートする車両。白子町では、タクシー利用券(1枚500円分)を配布し、利用料金の一部を助成する福祉タクシー事業を実施している。

フレイル

さまざまな原因によって心身機能が低下し、要介護状態になる可能性が高い状態。健康な状態と要介護状態の間に位置する。

ヘルスツーリズム

旅行という楽しみの中で、健康の回復や健康増進を図る活動、そして旅行をきっかけに健康へのリスクを軽減する活動のこと。

ま行

モビリティ・ハブ

電車やバス、シェアモビリティ(自動車や自転車等)等の交通手段の接続・乗換え地点のこと。

や行

遊休農地

農地法に基づいて、現在耕作が行われていない、または今後も耕作される見込みのない農地のこと。

ユニバーサルデザイン

「すべての人のためのデザイン」という意味で、年齢、性別、身体、国籍などの違いを越えて、全ての人が暮らしやすいまちづくりやものづくり、環境づくりなどを進めていくこと。

用途地域

計画的な市街地を形成するために、土地利用の目的に応じて13種類に分けられた地域のこと。建築できる用途や規模に関するルールが定められている。

ら行

リスクマネジメント

不測の事態に対してあらかじめ必要な対策を講じること
で危機の発生を防止・抑制し、現実に危機が発生した場合
も被害を最小限に食い止めるための対策を整える仕組み
のこと。

立地適正化計画

都市計画法を中心とした従来の土地利用の計画に加え
て、居住や都市機能の誘導によりコンパクト・プラス・ネット
ワーク^{*}の形成に向けた取組を推進する計画のこと。

※拠点への都市機能の集約や拠点間及び拠点と地域を結
ぶ公共交通ネットワークを確保すること(第3章より)

流域治水

気候変動の影響や社会状況の変化などを踏まえ、河川の
流域のあらゆる関係者が協働して流域全体で行う治水対策
のこと。

わ行

ワーケーション

ワーク(仕事)とバケーション(休暇)を組み合わせた言葉
で国内外のリゾート地や帰省先などの普通の職場とは異なる
場所で余暇を楽しみつつ仕事を行うこと。

A-Z

AI

Artificial Intelligence の略。人口知能。人間の脳が
行っている知的な作業をコンピュータで模倣したソフトウエ
アやシステムのこと。公共インフラの維持・管理や自動運転
など、まちづくりにおける活用が期待される。

CSR 活動

「Corporate Social Responsibility」の略。企業の
社会的責任。企業が従業員、消費者、地域社会に対して責任
ある行動を行うこと。

DX

Digital Transformation の略。情報通信技術などの
活用により、人々の生活をあらゆる面でよりよい方向に変
化させること。まちづくりにおいて DX が進展することによ
って、一体的なシミュレーションに基づく全体最適、分野横
断型の取り組みなどが期待される。

ICT

Information and Communication Technology
の略。情報通信技術。リアルタイムな都市の状況変化に対応
した機動的なまちづくりなど、情報通信技術のまちづくり
への展開が期待される。

SDGs

平成 27(2015)年9月の国連サミットで採択された「持
続可能な開発のための 2030 アジェンダ」にて記載された
2030 年までに持続可能でよりよい世界をめざす国際目
標のこと。まちづくりにおいても SDGs の目標達成に貢献
する取組を展開することが求められている。